

トライアングル

2019
冬号発行日／平成 31 (2019) 年 3 月 発行／一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会 発行責任者／松上利男 編集／松嶋桂子
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内
TEL 06-6763-3785 FAX 06-6763-3759 E-mail osaka-chifukukyo@giga.ocn.ne.jp

特集

魅力ある職場づくり 職員が続く・育つ施設とは

近年、福祉施設の現場における人材不足が問題視されています。また、経験が浅い職員の定着に繋がらず、職員が育たないといった状況に頭を抱える事業所も少なくありません。時代の変遷とともに、職場環境について対策を講じなければならな

いことが急務となっています。そこで、このような問題に対してどのような対策が必要なのかと考え、「魅力ある職場づくりとは？」というテーマで、職場改善に取り組む3事業所にお話を伺いました。

社会福祉法人加島友愛会 かしま障害者センターLink

大阪府 就労移行支援／自立訓練／就労継続支援B型／就労定着支援 障害者就労支援事業部・職員数30名

職員それぞれに見せ場があり、輝ける組織を目指して!!

今回、かしま障害者センターLink（以下Link）の支援課長・玉城由美子さんとジヨブコーチ・水津由依さんに取材させて頂きました。

Linkの事業内容は、就労移行支援事業、自立訓練（生活訓練）事業、就労継続支援事業B型、就労定着支援事業があります。作業科目はリネン、ビルメンテナン、受注作業、施設外就労で、作業に日々取り組んできました。これまでに100名を超える利用者の就労を実現しています。

●Linkの魅力とは？

Linkの魅力としてあげられることは、女性の働きやすさがありました。正規職員11名のうち、8名が女性です。また、出産、産休を経験した職員が3名います。玉城さん自身も産休を経験しているので、女性のライフワークバランスをととても理解してくれている

のが魅力と水津さんは語ってくれました。

3名ともに、産休後に正職員として復職しています。仕事の内容は今までの担当をやるのではなく、別の仕事を新たに任されるそうです。そうすることで、職員同士で助け合い、それぞれの職員のキャリアアップに繋がっているそうです。

また、3歳未満の子どもを育てている職員は「短時間勤務制度」を利用していているそうです。

●人材育成や職場環境づくりの工夫

新人職員にも業務を任せて、経験をしてもらっているそうです。失敗したとしても上司がフォローして、出来ていることは褒めることを意識しているそうです。「人は役割が大切」「褒めることが一番の人材育成」と玉城さんは語ってくれました。

それぞれの職員に見せ場を作り、仕事と子育ての両立がしやすい環境づくりを工夫しているのがLinkの魅力であると感じました。

（広報委員 杉扶早子、高原良太）



特集：魅力ある職場づくり 職員が続く・育つ施設とは ……1
社会福祉法人加島友愛会 かしま障害者センターLink／社会福祉法人なにわの里／社会福祉法人永寿福祉会 永寿の里若葉、永寿の里彩羽

●事業報告●

権利擁護・虐待防止研修会 報告……………3

●ちょっとつばきりレー●
社会福祉法人摂津有和会 理学療法士 望月順一 ……3

●紹介！ユニーク自主製品●
LaLa-chocolat（ララ ショコラ）……………4
第37回スポーツフェスタ2018大阪／インフォメーション ……4

社会福祉法人なにわの里

柏原市 施設入所支援／生活介護／グループホーム／児童発達支援・放課後デイ／相談支援 職員数100名



法人の理念や地域に根差した取り組みが、人材育成と定着に繋がっているのではと考え、社会福祉法人なにわの里を訪問し、理事長の前田研介氏よりお話を伺いました。

なにわの里では、学生や地域の方などが参加できるオープンセミナーを開催しています。大学の教職員などに講師を依頼したり、日々の支援で成果があった事例について、現場のスタッフが発表する実践事例発表会を行ったりしています。スタッフが支援を振り返るきっかけとなり、自己認識を高める場となっています。また、実践事例集を発行されて

おり、支援スキルの向上とスタッフの育成に繋がっているとのことでした。

職場づくりについて尋ねたところ、最も印象的だったことは、部長・課長・係長などの役職者が、常にスタッフの様子を確認できるように、会議だけではなく日々のやりとりを大事にされていることです。長い間、「利用者の為に」という方針で運営されていましたが、戦略的にスタッフのマネジメントを行い、職場改善に取り組まれています。前田氏は「今のなにわの里があるのは、現場が頑張ってきたから」と話されていました。

最後に前田氏は、「スタッフのライフスタイルに沿うことで、離職するスタッフが減少した。これまでにさまざまな取り組みを行ってきたが、日々の丁寧なやり取りが重要だと感じている」とのことでした。

(広報委員 水津由依、吉村周二)

社会福祉法人永寿福祉会 永寿の里若葉、永寿の里彩羽

昨今、福祉業界で大きな課題の1つとなっている事は、皆様もご存じのように「福祉離れ」「離職率」ではないでしょうか？この課題にどう向き合い、テーマである「魅力ある施設」とはどういうものなのか学ぶため、大阪市平野区にある永寿の里若葉、永寿の里彩羽（いろは）を訪問してきました。

障がい事業担当部長の油谷佳典氏から、事業計画と経営ビジョンなどについて、資料に基づいて説明をしていただきました。例えば、中長期目標を基に短期目標が作られていて、2025年達成に向けた経営ビジョンがあり、年度事業計画は①私たちの職場 ②お客さまの暮らし

③地域活性の3つに分けられています。

他には、私たちが目指す人財像として6つの狙い（気持ちの変化に気づける・思いやりがある・仲間がたくさ

んいる・愛と勇気がある・感謝の気持ちを持つ・いつも笑顔の人）があり、自分の成長を実感できる職場「働きたい気持ちを大切に作る職場」を指針にされていました。

今回の施設訪問でとりわけ印象的だった事は、事業展開をしていくために必要なこれらの計画は、ワーキングチームと呼ばれる現場の職員さん方が中心のチームにより、主体的かつ自由な発想で作られていて、そのシステムを確立している事でした。ここに至ったのは、1人ひとりの職員さんの意識が職場環境において生み出された結果ではないかと確信が持てた訪問となりました。

(広報委員 上月直樹、吉岡裕幸)



2月22日 権利擁護・虐待防止研修会 報告

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会と当福祉協会が合同で権利擁護・虐待防止研修会を開催し、約140名の方の参加がありました。

今回の研修会では、第1部として又村あおい氏（全国手をつなぐ育成会連合政策センター委員他）を講師としてお招きし、「障害者差別解消法、虐待防止法施行後の現場とこれからの課題」をテーマに、障がい者虐待に関する実情についての講演を行いました。第2部ではシンポジウムとして、当福祉協会会員施設・くりのみ園、今林の里より、具体的な虐待防止への取り組みの報告を行い、又村氏と当福祉協会・松上会長よりの助言をいただくシンポジウムを行いました。

昨今、障がい者に対する不適切支援の事例が多数報道されていますが、本研修参加者は、虐待防止に向けた「支援者としてあるべき姿勢」と「事業所で取り組むべきこと」をあらためて考える機会になったのではないのでしょうか。

（研修委員長 川上隆弘）

大阪知的障害児者生活サポート協会・大阪知的障害者福祉協会
合同権利擁護研修会 次第

日 時 平成31年2月22日 午後2時～5時
場 所 ホテルアウィーナ大阪4階金剛

1. 開会挨拶 午後2時
一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
理事長 安本 伊佐子
2. 研修会
(第一部) 午後2時10分～午後3時40分
「障害者差別解消法、虐待防止法施行後の現場とこれからの課題」
講師：又村 あおい 氏
全国手をつなぐ育成会連合政策センター委員
日本発達障害者連盟 JL ニュース編集長
内閣府障害者差別解消法アドバイザー

(第二部) 午後3時50分～午後4時50分
シンポジウム
(テーマ) 虐待防止の取り組み～支援現場からの報告
進行：第2恵園 木村勝也 施設長
発表：くりのみ園 大崎年史 施設長
今林の里 三宅崇央 副主任
助言：又村 あおい 氏
大阪知的障害者福祉協会会長 松上利男
3. 閉会挨拶 午後4時55分
一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会
会長 松上利男
4. 閉会 午後5時



ちょっと つぶやき... リレー

社会福祉法人摂津宥和会 理学療法士

望月 順一

私は摂津市立みきの路で入所・通所者のリハビリを担当しております。入職当初は知的障害により指示が入りにくく、運動療法を思うように行えず、途方に暮れておりました。反応の無い方、訓練室から出て行かれる方も多く、私に何が出来るか悩みました。しかし一人で考えず、御家族様や上司、支援員、看護師と話し合い、何が結果的に意味のある運動になるかを考え、無理せず継続実施していくうちに、その場を離れる方が減りました。これはそれぞれの個性に沿うプログラムを実施した結果だと思います。チームプレイの大切さを実感しました。今でも上手いかない事は多々ありますが不安は少なく、むしろやりがいを感じております。

今後の課題はプログラムの種類を増やし、怪我や加齢による機能低下に柔軟な対応ができるようにする。リハビリを実施していない方々にも何か変化を感じたら評価・対応していく事と考えております。

次回は
「にいたかの里」の
内村 尚子さんに
お願いします



紹介！
ユニーク
自主製品

ラ ラ シ ョ コ ラ LaLa-chocolat (高槻市)

社会福祉法人北根杉の子会 就労継続支援 B 型事業所



パティシエとともに考えたこだわりの素材や工程を、ひとつひとつ手作業で形にしていきます。材料の計量や生地作り、トッピング作業や商品の包装など、さまざまな工程を利用者の方が担っています。担当の方は「まず商品（ショコラ）を知ってもらった後に、福祉事業であることを知ってもらいたい」という話をされていました。たくさんの思いやこだわりが詰まったララショコラに、ぜひみなさんも一度、足を運んでみてください。

高槻市にねづいて、地域に 溶け込んだ“ララショコラ”

シエルギフトBOX 1620 円 (税込)

サブレマンディアン 324 円 (税込)

購入方法

- ①ホームページ <http://lala-chocolat.net/> の「Order」から可能。(※一部商品のみ)
- ②物品販売やイベント情報はホームページまたはフェイスブックにて随時更新しています。

(広報委員 水津由依)



INFORMATION

●平成31年度総会

日時…平成31年5月24日(金)
場所…ホテルアウィーナ大阪

●大阪フレンドシップフットボール大会

日時…平成31年6月6日(木)
場所…大阪府久宝寺緑地公園

第37回スポーツフェスタ 2018 大阪 「それぞれの喜び」

取材日：平成30年10月20日(土)



10月20日(土)、陸上競技、フライングディスク、レクリエーション会場であるヤンマースタジアムに取材に行きました。

スポーツフェスタは、小学生の年齢から69歳の方まで、幅広い年齢層の方が出場されています。参加資格も、知的障がい(児)者(障がいの程度は問わない)となっています。

陸上競技の男子100m走では、一番早いタイムで12秒05でした。一般的な平均14秒台を越えている選手も多くて驚きました。また、身体障がいや視覚障がいの方も多く出場していました。みなさんゴールをし

た際の表情や、伴走者の笑顔がとても印象的でした。

トライアングル149号のスポーツフェスタで取材させて頂いた、「四季の森」の利用者の方々は今度も参加されていました。取材させて頂いた時は初出場で「また出たい!」と言っておられたので、再び出場されている姿を見ることができて嬉しく思いました。

スポーツフェスタでは、年齢や障がいに関係なくあらゆる選手が参加している姿を目にしました。この日を目標に頑張ってきた利用者、家族、職員の喜んでる表情を多く見ることが出来て良かったです。

一番印象に残ったのが、最後まで諦めずにゴールに向かっていく姿や応援している人々。みなさん、素晴らしい笑顔で達成感のある表情をされていたことです。色のついたメダルを取ることは出来なくても、出場することの喜びやゴールをする喜び、それぞれの喜びがスポーツフェスタにはありました。

(広報委員 高原良太)